

日本大学通信教育部『研究紀要』執筆要領

令和2年9月23日担当会議制定
令和6年5月22日担当会議改正
令和7年2月21日担当会議改正

「日本大学通信教育部『研究紀要』投稿要項」に基づき、『研究紀要』に投稿する原稿は、以下の要領によって執筆するものとする。

- 1 原稿の執筆は、原則としてパソコンのワープロソフト等を用い、原稿をプリントアウトしたもの2部と電子データ化した原稿を研究事務課に提出すること。

なお、文字数の目安は以下のとおりとする。

項目	文字数
「査読付論文」 人文科学系	30,000字
「査読付論文」 社会科学系	30,000字
「査読付論文」 欧文	12,000語
「自由投稿論文」 人文科学系	30,000字
「自由投稿論文」 社会科学系	30,000字
「自由投稿論文」 欧文	12,000語
「研究ノート」	18,000字
「資料」	15,000字
「翻訳」	15,000字
「報告」	15,000字
「書評」	15,000字
「その他」 (編集委員会が認めたもの)	15,000字

- 2 原稿の作成や注・引用の文献の表記の扱いについては次のとおりとする。なお、従えない場合は、事前に必ずその旨を申し出ること。編集委員で検討し、回答する。

【縦書・横書共通】

- ① 論文等の体裁としては、表題、著者名、本文、謝辞（必要な場合のみ）、注、参考文献の順で記述する。なお、注の表記は「注」とし「註」は用いない。
- ② ページ下部中央にページ番号を付記する。

③ 図表の体裁

- (1) 図表は上記の原稿の分量にふくまれるものとし、本誌 1 ページ（縦書 1,500 字、横書 1,330 字）を目安とする。なお、グラフを Excel 等のソフトで作成している場合は、そのグラフの作成に使った元データも投稿の際に添付する。また、図版の場合はなるべく鮮明なものを投稿の際に別途添付する。
- (2) 図表のタイトルは図と表を分けて、図 1, 表 1 のようにゴシックで記載することを原則とする。
- (3) 図表の下には、参考文献表記にしたがって、出所を明記する。自分で作成の場合は、筆者作成と記す。一部改変の場合は、一部改変と記す。

④ 図版などの掲載許可

掲載原稿に使用する写真・図表などで掲載許可が必要な場合は、原稿提出までに執筆者自身で掲載許可を取得する。

【縦書きの場合】

- ① 年表記は西暦を原則とする。和暦等、元号表記も記述することができる。数字は漢数字とし、単位語（十、百、千等）は使用しない。零は「〇」を用いる。
- ② 参考文献の表記は次の形式とする。
 - (1) 単行本の場合は、著者名、表題、発行所、発行年の順で記す。単行本が欧文の場合は、表題を斜体とする。
 - (2) 雑誌論文は、著者名、表題、雑誌名、巻号、発行年、頁の順で記す。表題、書名、及び雑誌名等は略記しない。雑誌が欧文の場合は、雑誌名を斜体とする。
 - (3) 同著者の同年発行のものは、発行年の後に a, b と記す。また、著者が複数の場合、日本語文献は著者名を中黒（・）でつなぐ。欧文の場合、著者が二人の際は and でつなげ、三人以上の場合はコンマ（,）で区切り、最後は and でつなぐ。
- ③ 見出し（番号）表記は次の順とする。
一 → 二 → ①

【横書きの場合】

- ① 年表記は西暦を原則とする。和暦等、元号表記も記述することができる。数字はアラビア数字を用いる。
- ② 参考文献の表記は次の形式とする。
 - (1) 単行本の場合は、著者名、表題、発行所、発行年の順で記す。単行本が欧文の場合は、表題

を斜体とする。

(2) 雑誌論文は、著者名、表題、雑誌名、巻号、発行年、頁の順で記す。表題、書名、及び雑誌名等は略記しない。雑誌が欧文の場合は、雑誌名を斜体とする。

(3) 同著者の同年発行のものは、発行年の後に a, b と記す。また、著者が複数の場合、日本語文献は著者名を中黒（・）でつなげ、欧文の場合、著者が二人の際は and でつなげ、三人以上の場合にはコンマ（,）で区切り、最後は and でつなぐ。

(③) 見出し（番号）表記は次の順とする。

1. → (1) → ①

3 投稿後の訂正は誤字脱字に限り、原則として内容の変更は認めない。

4 不明な点については研究事務課に問い合わせること。

附 則

この要領は、令和7年2月21日から施行する。